E—14 集合住宅居住者の住環境に対する総合的住意識の調査研究 （第3報）

すみれ女子短大　○島田裕子　泉谷秀子
名古屋女子大　大野庸子　山田家政短大　志水暎子

目的　集合住宅居住者の住環境全般に関する住意識の調査を基に、日常生活に支障をおよぼしている要因を把握し、それらに如何に対処しているか、また今後どのように対処しなければならないかを明らかにするために次のような調査研究を行った。

方法　調査対象：名古屋市内・日本住宅公団賃貸及び分譲住宅中300戸以上の団地から、危険率＜5％の無作為抽出。　調査団地及び戸数：志賀・星ケ丘・又穂団地、合計864戸（賃貸住宅）　相生山団地327戸（分譲住宅）　総計1191戸。　調査方法：アンケート用紙記入方式。　調査期間：昭和51年3月6日～3月16日。

結果　回収率75.7％。住戸の形態一中層階段型7割、廊下型3割、2DK・3DK3割。在帯概況一夫婦及び夫婦十子供8.5割、病人・乳幼児等を含む在帯3割。住環境の評価一悪いと評価した項目「広さ」5割、「夏の暑さ」「ごきぶり」4割、「騒音」2割、「駐車場」2.5割、良い項目「買物・小学校・交通・病院等の便」、分譲住宅は全般に評価が高く賃貸は低い、特に廊下型においては「室の明るさ・日当り・風通し」が悪い。転居希望は5割その理由は、マイホーム志向、狭い、庭が欲しい等。「暑さ、寒さ」は1階、最上階が悪く、「日当り・風通し・明るさ」は上階程良い。

住宅内発生音については「非常に気になる・気になる」が全体で2割、これは居住年数と関係がなく馴れがないことを示す。音源別順位は給排水の音、玄関扉の音、家具・椅子の音・足音・とびはねる音、階段での足音・話し声で3.5～3割、次いで便所の行為音、建具の音、バルコニーの物音、ピアノ・ステレオ等が2割、その他クーラー等が1割。